

？ 学習にあたって

この本は、実際の入試問題を使って記述力を養成することを目的としています。

現代文における記述式問題を解くためには、「読む力」と「書く力」の両方が必要です。文章を正しく読解できなければ、設問に対応した答案を書くことはできません。その意味では、読解力あつての記述力といえるでしょう。

しかし、問題文を正確に読解することは、記述式問題を解くための必要条件であつて、十分条件ではありません。したがって、国公立大学の入試で出題される記述式問題で合格答案を作成するには、「読む力」と「書く力」を同時にトレーニングすることが必要になります。

読む力、すなわち読解力を身につける上では、論理的な読解力とテーマ・キーワードに関する背景知識を学習することが大切です。「記述トレーニング」と銘打っている本書ですが、問題文の論理的な読解解説に加え、問題文が扱っているテーマに関する発展的な解説にも十分な紙数を割いています。本書にじっくりと取り組みれば、読解型小論文の対策にもなるでしょう。

書く力、すなわち記述力を高める最善の方法は、実際に設問を解き、手を動かして答案を書いてみることに尽きます。設問と設問解説に目を通しただけでは、記述力は身につけません。

加えて、記述式問題の学習では、自分の書いた答案を反省的に見直すことが不可欠です。解説や解答例を参考にし、傍線部の読解が適切だったか、答案にどのような要素が足りなかったのかといった点を自己点検することで、記述力や表現力は改善されていくのです。

□ 本書の特徴と効果的な活用法

本書は、右記で述べたような読解力と記述力を十分に身につけることができるように、さまざまな工夫を盛り込みました。以下、学習の流れに沿って、本書の特徴と効果的な活用法を説明していきましょう。

① 分野に即した大問構成 (本冊)

本書は「哲学・思想」「言語・文化」「科学論」「法・政治・経済」「近代」「現代」という形で、分野別に大問を構成しています。収録している問題文は、すべて国公立大学二次試験で出題されたものです。

それぞれの大問には、読解面と記述面の難易度を表示しています。入試評論文の「読みやすさ」と「解きやすさ」は必ずしも一致しません。「読解は難しいけれど、設問は平易」という問題もあれば、「読解は比較的平易だけれど、設問は難しい」問題もあるため、本書では読解力と記述力別々に難易度を設けることにしました。

個々の問題に取り組むうえで、決まった順番はありません。分野ごとに解いてもいいですし、読解力や記述力に自信のない人は、自身の学習課題に応じて、易しい問題から解いてもいいでしょう。

① 問題文

分野別に大問を構成

読解と記述の難易度を表示 (★~★★★★)

関連するキーワード

The image shows a page from the book with a reading comprehension question. The question is about the relationship between 'culture' and 'civilization'. The page includes a title '5 文化の進いそのまに理解するか', a difficulty level indicator '読解★★★ 記述★★★', and a time limit '所要時間 30分'. The text of the question is in Japanese and discusses the concepts of culture and civilization, asking for an explanation of their relationship.

解答時間はあくまで目安です。自分の納得がゆく答案を作成することを優先する場合は、あまり解答時間に縛られず、じっくり時間をかけて問題に取り組んでください。入試本番を意識して使いたい場合は、いったん時間で解いてみてから、手がつかなかった設問をあらためて解き直してもいいでしょう。

どのような使い方をするにせよ、すべての設問について、実際に手を動かして答案を作成することがなにより肝心です。

② テーマ解説（本冊）

それぞれの大問には、問題文をより深く理解するために、問題文で扱っているテーマやキーワードに関する解説を掲載しています。入試問題の多くは、出典となっている著作の一部を切り取って作問されているため、問題文の範囲だけでは、筆者が展開している議論の意義や重要性まではわかりません。それはやむをえないことですが、入試で出題される評論文はそれ自身がテーマやキーワードを学習する格好の素材です。本書ではそのことを重視して、たとえ問題文には登場していませんが、重要だと思われる関連テーマやキーワードを解説することを通じて、問題文で論じられている内容が、学問の世界でどのような意義を持っているのかという点まで踏み込んで説明しています。その意味で、このテーマ解説は教養入門としても読めるでしょう。

③ 読解の要点・読解図（本冊）

「テーマ解説」の後に続く「読解の要点」と「読解図」では、問題文全体の論理的な読み解き方を解説しています。ここでは単に段落を要約するのではなく、問題文を読む際の（頭の働かせ方）にも配慮しました。冒頭で述べたように、記述式問題は、問題文を正しく読解できなければ解くことはできません。

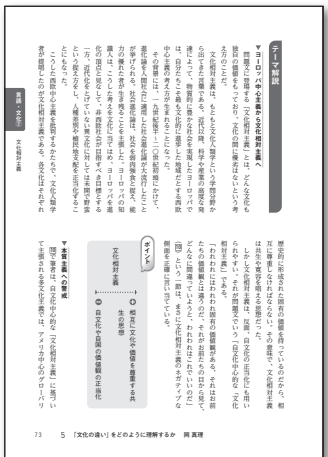
問題文を漠然と読み流すのではなく、論旨を把握するために、どのような語句に着目しながら読めばよいかを確認するとともに、自分が正しく読解できていたかどうかを、ここで点検してください。

④ 要旨・解答例（別冊）

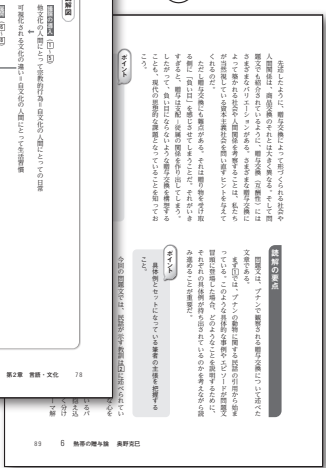
別冊では、最初に問題文の二〇〇字要旨と解答例を掲載しています。現代文の入試では、問題文の要約や要旨を書かせる問題が出題されることがあります。また、読解型小論文でも、課題文を要約させる問題は頻出しています。

要約や要旨の作成は、記述力を鍛える格好のトレーニングになります。復習する段階でかまわないので、独力で問題文の要旨を作成してみてください。

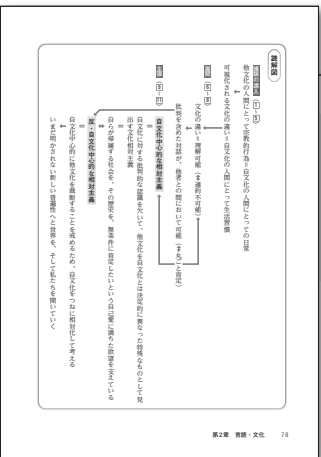
② テーマ解説



③ 読解の要点



③ 読解図



⑤ 解答時間・配点(別冊)

大問ごとの解答時間と配点を、どのように設定したのかを説明しています。ここはざっと目を通せば十分です。

⑥ 設問解説・採点基準(別冊)

別冊のメインパートです。設問解説では、問題文の読解をふまえながら、各設問にどのような手順でアプローチするかをくわしく解説しています。解答例がどのような筋道で導かれているかをよく理解するようにしてください。

本書では、できるだけみなさんが自分の答案を適切に評価できるように、詳しい採点基準を設けています。記述式問題の場合、一つの設問に対して唯一絶対の正解があるわけではありません。この採点基準を使って、解答例以外でも、どのような表現であれば加点されるのかを確認してください。

□ 問題文の選定基準

本書には一四の入試問題が収録されています。問題文はすべて評論文であり、出題の頻度やテーマ理解というコンセプトから、随筆や小説は収録していません。

問題文の選定にあたっては、現在の学問動向や時代性をふまえながら、できるだけ出題年度の新しい入試問題を採録しました。また、テーマ・キーワードに関する知識、論理的読解力、日本語表現力をバランスよく学習できることも重視しました。

その意味で、本書は拙著『読解 評論文キーワード』(筑摩書房)と同様、かなり欲張った演習書です。既存の記述式問題集でも、問題文の読解や設問の解き方を手厚く解説しているものは多数ありますが、テーマという観点から問題文を俯瞰的に説明しているものはほとんどありません。

本書は入試対策として読解力と記述力のトレーニングになるのももちろんですが、同時に学問の世界への知的関心をかきたてるような内容を目指して作成されました。本書を通じて、問題文を読解し、答案を作成することに加え、問題文それ自体の面白さを味わってみてください。

* 入試問題の掲載にあたっては、設問の順番(漢字書き取り問題はすべて冒頭に置いています)や傍線部の記号の種類、設問の文末表現など、本全体を通して統一しています。

4 要旨・解答例

5 解答時間・配点

6 設問解説・採点基準

各大学の出題状況が具体的にわかる

すべて200字なので要約の練習に最適

問題文に照らし合わせ、解答要素の洗い出し方がわかる

部分点や許容範囲を示し自己採点が可能に